

2022 年度卒業生成長実感調査について（報告）

2022 年度の卒業生について、卒業時に学士課程全体を通じた成長実感を測定するため、アンケート調査を実施しましたので報告いたします。

1. 調査概要

(1) 趣旨

中央教育審議会答申の中で示された3つの方針について、その方針に基づく人材育成に関して、卒業時の学修成果の測定を卒業生の自己評価にて行う。

調査結果は、学修成果の傾向を把握するとともに、学修支援体制整備に資することを目的とする。

(2) 調査概要

【調査実施日】 2023 年 2 月 20 日～2023 年 3 月 17 日

【対象者】

歯学部 卒業生 131 名 （有効回答者数 117 名 回答率 89.3%）

【調査方式】

WEB アンケート（Google forms）にて記名式・5 件法で自己評価を実施。

(3) 調査項目

「卒業認定・学位授与の方針」（以下「ディプロマ・ポリシー」という。）に関連した自己評価項目 10 項目、「カリキュラムに関する満足度」を尋ねる項目 8 項目及び学習習慣に関する項目を 6 項目尋ねるアンケートを実施。

≪自己評価項目≫ 10 項目

●基礎医学及び歯科医学の知識

→基礎歯学、臨床歯学、社会歯学、各分野における知識を体系的に正しく理解し、原理から応用まで説明できる。

●情報収集・分析力

→ひとつの事柄について、自ら情報を収集し、複数の視点から現状を俯瞰して分析し、目的や課題を明らかにすることができる。

●課題解決力

→問題の本質をとらえ、課題の解決に向けた工程を明らかにし、現実的な課題解決策を提示することができる。

●高い倫理観・コミュニケーション力

→（協力・協働）自分の置かれている状況、役割ややるべきことを認識し、自身の役割を果た

しながら他者と協力・協働することができる。

→（聞く力） 自他分け隔てなく思いやる心を持ち、相手の意見を丁寧に聞くことができる。

→（伝える力） 他者の考えや立場を理解し、相手の意見を聴いて自分の考えを正確に伝えることができる。

●国際人としての素養・多文化共生力

→異なる文化や価値観の人々の社会的・文化的背景を理解・尊重し、表現を工夫しながら、意見を述べたり、意見調整ができる。

●歯科医療を適切かつ確実にを行う診察・臨床技能

→歯科医師としての基本的な診察技能及び態度を修得し、患者目線での治療を行うための技能を有している。

●歯科医師としての基礎的素養

→プロフェッショナリズムや倫理観、医療安全、チーム医療、社会保障、地域包括ケアシステム、訪問歯科医療、災害医療など、歯科医師の使命について理解し、他者に説明できる。

●学び続ける気持ちと姿勢・自己研鑽力

→歯科に対する社会的ニーズが日々変化していることを認識し、新たな役割に的確に対応できる資質・能力を学び続ける意欲と意志がある。

【評価基準】

- 5：100%基準を満たしていると思う。
- 4：80%は基準を満たしていると思う。
- 3：50%は基準を満たしていると思う。
- 2：ほとんど基準を満たしていないと思う。
- 1：そのような力は全く身につかなかったと思う。

《カリキュラムに関する満足度》 8項目

- 基礎医学及び歯科医学の知識
- 情報収集・分析力
- 課題解決力
- 高い倫理観コミュニケーション力
- 国際人としての素養多文化共生力
- 歯科医療を適切かつ確実にを行う診察・臨床技能
- 歯科医師としての基礎的素養
- 学び続ける気持ちと姿勢・自己研鑽力

【評価基準】

- 5：十分身に付けられるカリキュラムであった（満足度 100%）
- 4：ある程度身に付けられるカリキュラムであった（満足度 80%）
- 3：どちらとも言えない（満足度 50%）
- 2：あまり十分なカリキュラムではなかった（満足度 30%）

1：対応できるカリキュラムではなかった

《学習習慣に関する項目》

各項目について、学士課程全般を振り返ってあなたの考え方に最も近いものを選択してください。

A	A によくあてはまる	当 ては ま る ど ち ら か と い え ば A に	当 て は ま る ど ち ら か と い え ば B に	B によくあてはまる	B
学習は自宅や自習室等で、ひとりで学習することが多い	1	2	3	4	友人や先生とグループ学習を活用して学習することが多い
授業時間以外で毎日 30 分以上勉強した（低学年時から）	1	2	3	4	主要試験の前に学習計画を立てて集中して勉強した
講義で配布されるプリントや資料、教科書を中心に学習した	1	2	3	4	参考書や問題集、資料集などを中心に学習した
苦手・得意など分野ごとに学習計画を立てて勉強した	1	2	3	4	全ての分野をできるだけ均等に学習するようにした
周囲の意見を参考に新たな勉強法を取り入れた	1	2	3	4	自分にあうと思う勉強法で一貫して勉強した
学習や情報収集にインターネットを活用した	1	2	3	4	予備校や先輩、先生などからの助言・意見を活用した

2. 結果

(1) 自己評価

- 全体として自己評価が高い項目はコミュニケーション力（聞く）4.14（伝える）4.13
- 全ての項目で国試合格者の平均点が高い
- 国試結果前の調査であったがすべての項目で【不合格者】の自己評価が低い結果となった。
- 全体と比較して、全体平均との差が大きくなったのは「基礎医学及び歯科医学の基礎」で国試合格者は0.17 p t、不合格者は0.38 p tの差となった。
- 経年比較では、2022年度は他2年と比較してすべての項目で高得点となった。
- 2022年度卒業生の自己達成度は2020年度卒業生と近い値となった。

自己評価	全体	合格者	不合格者
基礎医学及び 歯科医学の知識	3.95	4.12	3.57
情報収集・分析力	3.99	4.12	3.64
課題解決力	4.00	4.10	3.64
倫理観・コミュニケーション力 （協力・協働）	4.08	4.15	3.79
倫理観・コミュニケーション力 （聞く）	4.14	4.19	3.86
倫理観・コミュニケーション力 （伝える）	4.13	4.22	3.86
国際人としての素養 多文化共生力	3.97	4.07	3.79
診察・臨床技能	3.97	4.02	3.79
歯科医師としての 基礎的素養	4.01	4.10	3.79
学び続ける気持ちと姿勢 自己研鑽力	4.08	4.19	3.86

(経年比較)

	2022年度	2021年度	2020年度
全体	80.6	75.1	79.1
本卒	81.1	76.2	80.1
合格	82.5	76.8	80.7
不合格	75.1	72.2	74.3
追卒	79.8	73.2	75.6

(2) カリキュラムに関する満足度

- 全体としてのカリキュラム満足度は 76.3
- 全体として評価が高いのは【歯科医師としての基礎的素養】【基礎医学及び歯科医学の知識】で全体として評価が低いのは【国際人としての素養・多文化共生力】となった。
- 経年比較では、2022年度は、不合格者のカリキュラム満足度が他2年と比較して最も低く72.0、合格者の満足度は、経年で高まっているものの、本卒全体では大きな変化はみられなかった。

カリキュラム評価	全体	合格者	不合格者
歯科医学の知識	3.91	4.10	3.64
析力	3.79	3.86	3.57
	3.81	3.93	3.64
コミュニケーション力	3.85	3.98	3.64
国際人としての素養多文化共生力	3.50	3.64	3.29
歯科医療を適切かつ確実に行う診察・臨床技能	3.84	3.93	3.57
ての基礎的素養	3.97	4.10	3.71
学び続ける気持ちと姿勢・自己研鑽力	3.87	4.07	3.71
(10点換算)	76.3	79.1	72.0

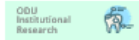
(経年比較)

	2022年度	2021年度	2020年度
全体	76.3	76.0	77.1
本卒	77.7	78.2	77.7
合格	79.1	78.6	78.2
不合格	72.0	75.6	72.9
追卒	74.1	71.8	75.2

(3) 学習習慣・学習スタイル別の国試合否状況

学習指導に生かすため、学習習慣のタイプ別に国家試験の合否の状況をみた。

学習スタイル



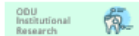
A 学習は自宅や自習室等で、ひとりで学習することが多い

B 友人や先生とグループ学習を活用して学習することが多い

	A	どちらかといえばA	どちらかといえばB	B
全体 (117)	28%	44%	18%	10%
本卒 (73)	29%	48%	12%	11%
合格 (59)	32%	42%	14%	12%
不合格 (14)	14%	71%	7%	7%
追卒 (14)	27%	44%	33%	11%

- 全体として【グループ学習】は3割程度。追卒者は4割強がグループ学習。
- 不合格者はグループ学習は14%と低く、ほとんどが自主学習ということがわかった。

学習計画



A 授業時間以外で毎日30分以上勉強した(低学年時から)

B 主要試験の前に学習計画を立てて集中して勉強した

	A	どちらかといえばA	どちらかといえばB	B
全体 (117)	25%	17%	38%	21%
本卒 (73)	29%	15%	32%	25%
合格 (59)	31%	12%	27%	31%
不合格 (14)	21%	29%	50%	0%
追卒 (14)	18%	20%	48%	14%

- 大学の主要試験に合わせた学習計画を立てているものが半数以上

学習教材



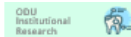
A 講義で配布されるプリントや資料、教科書を中心に学習した

B 参考書や問題集、資料集などを中心に学習した

	A	どちらかといえばA	どちらかといえばB	B
全体 (117)	30%	38%	18%	14%
本卒 (73)	29%	38%	18%	15%
合格 (59)	32%	34%	19%	15%
不合格 (14)	14%	57%	14%	14%
追卒 (14)	32%	39%	18%	11%

- 大学の講義プリント、教科書を中心に学習しているものが全体の約7割

優先順位・時間配分



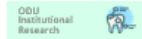
A 苦手・得意など分野ごとに学習計画を立てて勉強した

B 全ての分野をできるだけ均等に学習するようにした

	A	どちらかといえばA	どちらかといえばB	B
全体 (117)	31%	30%	27%	12%
本卒 (73)	34%	29%	21%	16%
合格 (59)	34%	25%	24%	17%
不合格 (14)	36%	43%	7%	14%
追卒 (14)	25%	32%	39%	5%

- 国試合格者は【苦手・得意など分野ごと】に優先順位付けて学習計画を立てることができているものが6割ほど。さらにすべての分野に着手できている割合も高い。
- 不合格者・追卒者は【苦手・得意など分野ごと】に優先順位付けて学習したものが多く【全ての分野を均等に学習】できているものが少ない。→優先順位の高い分野のみに集中して勉強している

勉強法



A 周囲の意見を参考に新たな勉強法を取り入れた

B 自分にあうと思う勉強法で一貫して勉強した

	A	どちらかといえばA	どちらかといえばB	B
全体 (117)	20%	31%	25%	25%
本卒 (73)	23%	25%	21%	32%
合格 (59)	24%	20%	20%	36%
不合格 (14)	21%	43%	21%	14%
追卒 (14)	14%	41%	32%	14%

- 不合格者・追卒者は【周囲の意見を参考に新たな勉強法を取り入れた】ものが6割以上。

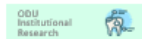
→ 自分なりの勉強法の確立が出来ていない。

各人の成績状況に合わせた個別の勉強法確立にサポートが必要(ボーダー層)

「教科書のまとめノート作成をしている」

→ 4年生がやっている朝テストをやってみよう。間違えた問題のまとめノートを作ろう。など

情報収集



A 学習や情報収集にインターネットを活用した

B 予備校や先輩、先生などからの助言・意見を活用した

	A	どちらかといえばA	どちらかといえばB	B
全体 (117)	25%	28%	31%	16%
本卒 (73)	29%	30%	25%	16%
合格 (59)	32%	25%	25%	17%
不合格 (14)	14%	50%	21%	14%
追卒 (14)	18%	25%	41%	16%

- インターネットによる情報収集が活発
 - SHISHIN-Web、[GoogleClassroom](#)など 情報発信のツールとして活用継続
- SHISHIN-Webのフォーラム機能を活用するなどして他の学生の状況を把握可能な状態にするなど